



第112号 〒950-2022 新潟市西区小針4丁目5番18号 瑞林寺 光輪会 電話 (025) 266-1846 FAX (025) 266-1907

九月二十三日 秋彼岸法要 永代経法要 無量寿廟法要 十時三十分 並びに 永代経法要 無量寿廟法要 十二時 住職の説教 老院の説教 十三時四十五分 秋彼岸法要 十五時 終了



月に一度は私の寺へ 開法の日 しんらんさまの日 毎月28日は二十八日講 午後1時30分

瑞林寺ホームページ http://www.zuirinji.com Google マップストリートビューで境内から本堂のご本尊もお参りできます。



老院の探る 瑞林寺の由来と歩み 鳥屋野の草庵と逆さ竹 古く平安時代から人々が住んでいたことが遺跡から知られる鳥屋野の地です。 親鸞聖人はここに三年ものあいだ草庵をむすび村にお念仏の道を説くが阿弥陀様のご本願に耳を傾ける人がない。そこで村人からもらった紫竹の杖を地にさして、

山田の焼酎の伝承 新潟市西区の黒埼地区、信濃川に面した山田一帯は明治の中頃までは中洲で山田島といいました。 いつも鳥屋野から川を渡って説法に來られる聖人が鳥屋野を去るにあたり別れの宴が開かれる。門徒が各々携えてきた酒を一つの器に移して飲まれたのでこの中洲を「合子酒」といわれたが、中古以来誤って「合子」が作られた地名になりました。 その宴席、焼いた鮎を差しあげたところ聖人はお袈裟をはずし脇の木の間にかけ、「わが真宗のみ法、仏意にかなひ念仏生疑いなくば、の鮎必ず生きたるべし」と、称名もろとも池に放つと鮎はたちまち生き返って泳ぐ、という故事から袈裟かけの覆・焼酎のご旧跡となりました。 隣村の「柳作」は聖人が「柳の花がきれいだ」といわれたことから、また善久の集落は聖人のご接待に供えたお膳から「膳供」の地名となり、のち「善久」に変わったと地元の人々の伝承です。 そのお出された菓子、子の器が近年、白川家から山田に寄進されました。

川を渡る真宗門徒 山田島では、もと田上の羽生田城主の栗林権濃守が無常を感じ出家、真言宗の光明寺を建てました。 その子の内記、藤四郎親子は親鸞聖人に帰依、内記は慶賢、藤四郎は慶圓として弟子となり、山田院焼酎山栗林誓慶寺として今日二十八世住職と連綿と歴史を伝えます。 後世、誓慶寺は山田ご旧跡を山王権現の神主、田代家に託し、寺は両川の酒屋に近い平賀の里に移り新田の開発にもあたりました。 その酒屋にもはたしませんでした。 上のつなぎ橋の旧跡を伝える西養寺様があります。 西養寺は田上の真言宗の寺であったが聖人の教えを受け真宗に改宗、ご旧跡を了玄寺にまかせ元龜年(1570)に信濃川を下り酒屋に渡ってききました。 阿賀野川に沿っては安田の三度栗の孝順寺様があります。 八つ房の梅、数珠かけ桜の小島の梅護寺様も水原町山口にある善照寺様の旧跡といわれます。 逆さ竹の浄光寺も、鳥屋野から蒲原と新潟に新天地を求めて渡り移り、その跡を西方寺様がお守りします。

お正信偈の言葉 「依修多羅頭真実」 お経とは「真実のたて糸」 住職 廣澤見隆 お寺の一日の始まり お寺の一日は朝のお勤めから始まります。 毎朝六時に梵鐘が鳴りますが、瑞林寺のお近くの方は聞こえますか? けつこう高台の所は遠くまで聞こえるようです。 風向きによっても違うようですね。 梵鐘がなった後、本堂の喚鐘が鳴ります。 それがお勤めの始まりの合図です。 住職と老院、法務員の山崎君、押田さん、宮島さんが本堂に並びます。 一時間近くの朝のお勤めです。 そして毎日、皆さんのお宅のご命日に伺います。 法事はもちろんお通夜やお葬式もお経を読むことがお寺の仕事ですが、お経を読むことにどういう意味があるのでしょうか。 お経はおまじないのような呪文? それとも祈り事を願う祈禱なのでしょうか。 縦糸と横糸 お経の経は縦糸という意味があります。 たとえば地球儀を思い出して下さい。 地球には経度と緯度があります。 経度が縦の軸、緯度が横の軸をあらわします。 経度と緯度が地球のどの位置かがわかります。 それから縦糸と横糸でできています。 縦糸は目立たず横糸をしっかりと支えて綺麗な織物になります。 横糸を私たちの生活に譬えてみるならば、毎日の生活もいろいろな事の積み重ねです。 つらいこともあれば悲しいこともある。 腹が立ったり怒ることもある。 うれしいこともあれば感動することもある。 でも過ぎ去つてみると思い出としか残らない。 なかには思い出したくない過去も消し去りたい過去もある。 でもその経験はみんな私の人生の「コマ」コマです。 貴重な体験の

永代経法要 永代経とは 永代経とは正式には「永代毎月読経」ということで、永代にわたり本堂で故人の毎月の命日には「お勤め」がとまることです。 お浄土に生まれ、仏様に成られた先祖さまの仏徳を讃嘆するとともに、仏様が残された子々孫々のあゆむ道を、永代にわたつて光り照らして下さる「ごもじび」のはたらきとなります。 毎月読経と法要 瑞林寺では毎朝六時の「おあさじ」に読経がとります。 ご命日にはぜひ本堂へお参りください。 また、一年に一度の総法要として「永代経法要」をお勤めにおつとめいたします。 このたびのご案内はこれにあたります。 このたびの永代経法要は、当山の門徒の年一度の総法要にあたります。 瑞林寺に連なる門徒の方々にはご本堂に足を運び、お参り焼香して仏法開聞してください。

- 永代経志納者 平成29年9月30日8月 釋清富 父 富治 八十三歳 平成二十九年四月八日往生 小針上山 伊藤 仙聡 釋普叙 母 フミイ 九十三歳 平成二十九年八月九日往生 五十嵐一 福田 雅旨 釋初陽 母 初枝 八十八歳 平成二十九年九月三日往生 五十嵐中島 片岡 信一 釋保保 夫 保也 七十五歳 平成二十九年九月十八日往生 天神一 高岡 久子 釋妙華 母 スイ 九十三歳 平成三十年六月二十七日往生 新通 小林 六助 釋淨幸 夫 幸雄 七十五歳 平成二十八年一月二十一日往生 坂井東 森林 恵子 釋光昭 父 井上昭治 九十一歳 平成二十九年九月十七日往生 坂井東 青木 みゆき 釋興崇 父 興志夫 六十九歳 平成二十九年九月二十八日往生 小針西二 中西 慶

- 無量寿廟納骨 平成29年9月30日8月 釋芳文 石田 フミ 八十三歳 平成三十年一月四日往生 坂井 長女 細川 恵美子 釋宏信 柏 宏 平成四年七月二十五日往生 小針 大谷 津弥子 釋妙照 柏 ミヨ 八十二歳 平成二十四年四月十四日往生 小針 大谷 津弥子 釋芳映 柏 律子 六十歳 平成十九年二月十一日往生 小針 大谷 津弥子 釋貴直 石井 三三男 八十二歳 平成三十年五月五日往生 秋葉区北上 長女 坪谷 貴子 平成二十四年四月十四日往生 小針五 妻 西野 恭子 釋和敬 西野 三郎 七十六歳 平成二十九年九月十四日往生 小針五 妻 西野 恭子

いつ志納するのか 特別な決まりはありませんが、伝統的には四十九日の中陰法要までに志納することが一般的な作法です。 しかし、遅れて一周忌、三年忌等の法要、あるいはお仏壇、お墓の開眼のおりとか、事情により数年後の場合もあります。 これはどこまでも残された子孫のお気持ちです。 制限はありません。 詳しくは住職にご相談ください。

お正信偈の言葉 「依修多羅頭真実」 お経とは「真実のたて糸」 住職 廣澤見隆 お寺の一日の始まり お寺の一日は朝のお勤めから始まります。 毎朝六時に梵鐘が鳴りますが、瑞林寺のお近くのの方は聞こえますか? けつこう高台の所は遠くまで聞こえるようです。 風向きによっても違うようですね。 梵鐘がなった後、本堂の喚鐘が鳴ります。 それがお勤めの始まりの合図です。 住職と老院、法務員の山崎君、押田さん、宮島さんが本堂に並びます。 一時間近くの朝のお勤めです。 そして毎日、皆さんのお宅のご命日に伺います。 法事はもちろんお通夜やお葬式もお経を読むことがお寺の仕事ですが、お経を読むことにどういう意味があるのでしょうか。 お経はおまじないのような呪文? それとも祈り事を願う祈禱なのでしょうか。 縦糸と横糸 お経の経は縦糸という意味があります。 たとえば地球儀を思い出して下さい。 地球には経度と緯度があります。 経度が縦の軸、緯度が横の軸をあらわします。 経度と緯度が地球のどの位置かがわかります。 それから縦糸と横糸でできています。 縦糸は目立たず横糸をしっかりと支えて綺麗な織物になります。 横糸を私たちの生活に譬えてみるならば、毎日の生活もいろいろな事の積み重ねです。 つらいこともあれば悲しいこともある。 腹が立ったり怒ることもある。 うれしいこともあれば感動することもある。 でも過ぎ去つてみると思い出としか残らない。 なかには思い出したくない過去も消し去りたい過去もある。 でもその経験はみんな私の人生の「コマ」コマです。 貴重な体験の

一コマコマが今の私に成っている。 無駄なことは何一つないはずなのに虚しさだけが残るのは何故でしょう。 けつきよく横糸の積み重ねが無意味に残り、縦糸に結ばれてないからみんな無駄に感じられるのではないのでしょうか。 吹けばすつかり飛んでしまふような積み重ねにしか思えない。 真実の言葉を より処にした生活 その見えない縦糸を言葉(教え)にしたのがお経です。「あなたはそのままでいいんだよ」「そんなことがあつても私はあなたのことを見捨てません」という阿弥陀さまのお心が、お経となつて私のもとへ届いているのです。 そのお心を伝えるために法事や月命日が勤められ、そのお経を説かせて頂くのです。 もっと言えば仏と成つた親たちの言葉や願いをあらわしたのがお経なのです。

バラバラだけど いっしょ そして手にしているお数珠も、ふだんバラバラに生きている私たちが数珠玉であらわします。 そのバラバラに生きている私たちが一人一人をつなぎ止めているのが数珠の糸、縦糸なのです。 たまに数珠の糸が切れると縁起が悪いという方がおられますが糸は切れてもまたつなぐことができます。 でもその糸が無かつたらみんなバラバラです。 お経の意味はわからなくても、少しづつ言葉にふれながら親しんでいくことが第一歩です。 まずはお経本を手にして声に出してみる。 それは自分の声だけで仏さまの声でもあります。 そして今は亡き方からの生きた声として呼び掛けて下さっている。 お経を読むことは生きる力を頂く元気の源です。

